

## まちぶん那須野が原 入選作品コメント

● 作品名：望郷－那須野が原の<sup>あまなろ</sup>翌櫓－

### 【あらすじ】

明治 37 年、外務大臣など明治政府の要職を担ってきた青木周蔵の一人娘ハナが結婚することになる。幼い時から姉妹同然に育ってきた青木家専属料理人の娘八重はハナに請われて東京へとお供することになるが…

※史実に基づいて書いているところもございますが、あくまでフィクションになります。

### ① 著者基本情報

・ PN：<sup>こんのあや</sup>今野綾

・ 住所：茨城県

※その他情報は非公表。

### ② 受賞に対する感想

選んでいただいたことは率直に嬉しいですが、反面、大賞・準大賞が居なかったという事が悔しいです。力不足で申し訳なく思います。とはいえ、本当に大好きでよく遊びに行く那須に僅かながら関わったことをとても光栄に感じています。選んでいただきありがとうございます。ありがとうございました。

### ③ 作品を作成したきっかけ、那須野が原地区への印象

毎年のように那須に遊びに行っていたのでこれは書かないわけにはいかないと思いました。観光で行く場所とは全然雰囲気異なり、歴史的建造物がたくさんあって知られていないのが勿体ないと感じました。実際、こちらのコンテストに参加させていただいて初めて知り、初めて赴いた場所ばかりです。

### ④ 作品を書いてみての感想

明治時代の華族たちがこぞって那須野が原に来ていたというのは考えただけでもとても浪漫を感じます。もともと私が明治時代に疎いせいで当たり障りのない設定になってしまいましたが、もし次回書くことがあればもっと勉強してから挑みたいと思いました。

●作品名：風舞う街

【あらすじ】

14歳の少女 町田舞は、母の貴子と那須野が原へ引越して来た。なかなか那須野が原に馴染めない舞であったが、そこで不思議な少年と出会う。

① 著者基本情報

・PN：<sup>ふきのとおる</sup>露野透

※その他情報は非公表。

② 受賞に対する感想

拙作を選んでいただき、ただただ感激です。

しかし驚いております。素敵な作品が多く、自分の作品が入選するのは難しいと思っておりました。

③ 作品を作成したきっかけ、那須野が原地区への印象

知人からまちぶんの話を聞き、何か書いてみようとな須野が原の事を調べるうちに、どんどん魅了されてしまいました。当初は、「入選して那須野が原をドライブするのが目標」などと家族に話をしていましたが、次第に「入選しなくても那須野が原には絶対行きたい！」と言う様に。特に蛇尾川の洗い越しと西郷神社は外せないポイントです。

④ 作品を書きかいた感想

ひとりの少女の成長と、取り巻く家族、不思議な友達とがうまく絡み、私が書いた割には良くできた物語となりました。

物語を書いている間はとても楽しく、毎日毎晩、想像の中で主人公や登場人物の目線で那須野が原を歩いたり、電車に乗ったりしていたので、書き終わってしまうと寂しさを感じました。

●作品名：ミルク・クラウン

【あらすじ】

知立春香<sup>ちりゅう</sup>は栃木的那須のとある高校の一年生。愛知から栃木に中学入学と同時に引っ越してきたが、まだ栃木に馴染めずにいた。おまけに、高校ではある出来事がきっかけで、ぼっち。そんな中、大好きな担任教師から見学してみるように勧められたのは ミルク部という謎の部活だった。

① 著者基本情報

- ・PN：花 千世子<sup>はな ちよこ</sup>
  - ・年齢：38歳
  - ・住所：栃木県那須塩原市
- ※その他情報は非公表

② 受賞に対する感想

このたびは入選作品にえらんでいただき、ありがとうございます。

応募した後は、なるべく「結果のことは考えずにいよう」と思っていたのですが、どうしても時々、考えてしまい、何か賞をいただけたらいいな……！と妄想しておりました。ですが、まさか本当に入選作品として選ばれるだなんて思いもよらず、入選を知った時は、思わず夫のいるリビングへ急ぎました。

夫もとても喜んでくれました。本当に幸せな気持ちでいっぱいです。

③ 作品を作成したきっかけ、那須野が原地区への印象

まちぶんのコンテストが今回、「那須野が原」と知り、ご近所が舞台になるなら絶対に応募しなければ！というある種の使命感を持ってしまいました。

応募作を書いていた時期はちょうど忙しかったのですが、「なにがなんでも応募したい」という気持ちで書き上げました。

普段は地元のことを熱心に考える機会はありませんが、これがきっかけで、地元の那須野が原の良さを再確認できたと思います。

那須野が原は広大な自然に囲まれた、のどかで人の温かい美しい場所です。

食べ物はおいしいし何より住みやすいので、私は那須野が原という場所がとても好きです。12年住んでも、ついつい近所の景色に見とれてしまうってなかなかないことだと思いますし、贅沢なことだとも思います。

④ 作品を書いてみての感想

「ミルク・クラウン」を書くのはすごく悩みました。何を悩んだのかと言うと、アイデアがなかなか浮かばなかったからなのです。

せっかく那須野が原を舞台にするならば、舞台を活かせるアイデアやキャラクターがほしいなあ  
と思い、いくつかのアイデアをボツにしてベッドの上で頭を悩ませていたら、急にこの作品の  
アイデアをひらめきました。

私自身、とても牛乳が大好きなので、那須野が原といえば、牧場、牛乳という連想で「ミルク・  
クラウン」のキャラクターができあがりました。

アイデアが決まるまでは、とても悩みましたが、書き始めてからは楽しくて楽しくてあっという  
間で。書いている最中に実際に、千本松牧場に行き、松方別邸を見て、ソフトクリームも食べて  
きました。千本松牧場は、私自身がとても好きな場所の1つなので、ここを舞台にして本当に良  
かったなあと思います。

実際に住んでいる場所を意識して作品を書く、という経験もとても良い刺激になりました。楽し  
く書けたものが、入選したただなんて、こんなに幸せなことはありません。